

◆ ペイント・アラショー ◆ (準備)

《材料》

種類	商品名	容量、施工面積
下塗り材 (シーラー)	①セニクリル	2.5L=±20㎡ 10L=±80㎡
ベース材	②ペイント・ア・ラ・ショー	10kg=±24㎡ (2回塗りの場合)
着色剤	③グレインカラー	10kgに対し250gが標準

※施工面積は、下地の状況や施工方法、またテクスチャーによって変動します。



①



②③

◆ ペイント・アラショー ◆ (施工) (2回仕上げ)

① 下塗り

薄塗りでの仕上がりのため、下地処理は念入りに行ってください。
セニクリル(シーラー)は、下地と壁材の接着をよくするために必ず使用してください。濃い色を塗る場合は、吸い込みを均一にするため、セニクリルの前に左官シーラー(ハイフレックス等)を塗ることをおすすめします。
セニクリルをローラーなどで塗った後、6～12時間乾かしてください。
2度塗りの際には、4時間以上乾かしてから2度目を塗ってください。



② 中塗り(仕上げ1回目)

ペイント・アラショーは未着色(白色)です。現場でグレインカラー(着色材)にて着色してください。着色する場合は、10kgに対しては1個のグレインを混ぜ、ムラができないように攪拌機で混ぜます。
(C0(白)は着色しないカラーを示します)
※ 混ぜるカラーの量は自由に調整できます。

材料が攪拌できたら薄手のステンレスコテ(0.3mm)でペイント・アラショーを0.5mm厚程度に薄く塗ります。厚みは塗装をするようなイメージで、薄く平滑に塗ってください。セニクリルが隠れる程度を目安に塗ってください。
塗り終わったら約6時間乾燥させます。



※ 中塗りを省き、1度塗りで仕上げることも可能ですが、その場合は下地の調整及び塗り厚に注意してください(セニクリルが隠れる厚さが目安です)。

③ 仕上げ（パターンづくり）

中塗りが乾燥したら、刷毛でペイント・アラショーを0.3mm厚程度に塗ります。刷毛を上下左右などに動かして塗り、お好みのパターンをつけます。約6時間乾燥させます。

※ 厚塗りすると亀裂が入る可能性があるのでご注意ください。

※ ②の段階の時に刷毛で模様を付けると、より立体感のある仕上がりになります。



④ 仕上げ応用編

仕上げの際、刷毛で塗った後にステンレスコテで軽く抑えることでアンティークな壁面をつくることができます。軽く触ってもペイント・アラショーが手につかない状態まで乾いた時点で押さえてください。（夏30分、冬1時間が目安です）ステンシルコテまたは金ベラで磨くと、表面にツヤを出すこともできます。磨けば磨くだけツヤが出るので、お好みに合わせて調整してください。

※ 完全に硬化した後だと、磨いてもツヤが出ないのでご注意ください。



◆ 施工に関して

- ・ 施工前に試し塗りをしてパターンを確認してください。
- ・ 施工時から完全に乾燥するまでに、気温が5℃以下になる場合には、クラックの原因になります。
- ・ 施工方法の文中の説明は、気温20℃の場合の乾燥時間の目安です。
- ・ 天候や気温・湿度によって乾燥時間は異なります。
- ・ 乾燥を急ぐ際の器具等を使っての急激な乾燥は、ひび割れの原因になりますので十分ご注意ください。
- ・ 各作業は、必ず前工程の乾燥後に行ってください。
- ・ 養生は施工後できるだけ早く除去してください。

◆ 安全に関して

- ・ 施工場所をよく換気してください。
- ・ 誤って目や口に入ってしまった場合は、清潔な水で洗い流すなどしてから医師の診断を受けてください。
- ・ 施工後は手洗い、うがいを行ってください。

◆ 下地に関して

石膏ボード

- ① 石膏ボードの動きや剥離がないことを確認します。出隅に面引きを使う場合はカッターで出隅の面をカットしておくとして作業がしやすくなります。
- ② 目地の部分にジョイントテープ（寒冷紗テープ、ファイバーテープ）を貼ります。出隅、入隅部分も同様の作業を行います。
- ③ はじめに下パテをヘラ等でビス穴に埋めます。次にジョイント部分を約15cm幅で塗っていきます。出隅、入隅部分も同様に約15cmの幅で塗ります。
- ④ セニボコタテが完全に乾燥した後、上パテをビス穴に塗ります。